

第8回南砺市交流観光まちづくりプラン推進会議 次第

日時 平成31年3月27日（水）

午後2時30分から4時まで

会場 南砺市役所福野庁舎 201会議室

1 開 会

2 委員長挨拶

3 議 事

- | | |
|----------------------------|-----|
| (1) 南砺市インバウンド推進方針について | 資料1 |
| (2) インバウンド戦略チーム（仮称）の設置について | 資料2 |
| (3) 南砺市の観光統計・施策について | 資料3 |
| (4) 後期パワーオン事業について | 資料4 |
| (5) 今後のプラン推進の流れと検証について | 資料5 |

4 質疑応答及び意見交換

5 その他

6 閉 会

南砺市交流観光まちづくりプラン推進会議委員名簿

（任期：平成25年度～平成34年度）

No.	役員名	氏名	摘要	備考
1	委員長	高橋 光幸	元富山国際大学現代社会学部教授	
2	委員	中嶋 勝彦	前帝京平成大学現代ライフ学部教授	
3	〃	田中 達也	富山県観光・交通・地域振興局参事・観光戦略課長	欠席
4	〃	川合 声一	一般社団法人 南砺市観光協会会長	
5	〃	一二三 敦司	南砺市商工会専務理事	
6	〃	太田 栄	富山県となみ野観光連盟会長	
7	〃	正保 治	北陸広域鉄道部城端氷見線区担当部長	欠席
8	〃	佐々木 隆博	東日本旅客鉄道株式会社北陸営業センター所長	
9	〃	松崎 貴行	加越能バス株式会社自動車部営業課長	
10	〃	楠 順子	南砺市観光ガイド連絡協議会長	
11	〃	村上 幸子	一般社団法人 南砺市観光協会理事	
12	〃	上田 明美	南砺里山博体験企画者	
13	〃	中道 真由美	公募委員	
14	〃	山本 誠一	公募委員	
15	〃	米田 聡	南砺市ブランド戦略部長	
16	〃	柴 雅人	南砺市市長政策部次長・地方創生推進課長	
	計	16名		

	アドバイザー	片岡 吉則	南砺市観光協会理事（兼）アドバイザー	欠席
--	--------	-------	--------------------	----

事務局

	事務局長	米澤 正好	交流観光まちづくり課長	
	事務局員	片田 健一	交流観光まちづくり課主幹	
	〃	嶋田 篤志	交流観光まちづくり課主事	
	〃	坂田 大知	交流観光まちづくり課主事	

第8回南砺市交流観光まちづくりプラン推進会議 席次表

南砺市福野庁舎 201会議室

H31.3.27 14:30~

委員長
元富山国際大学
現代社会学部教授
高橋 光幸

富山県観光・交通・地域振興局 観光戦略課長 田中 達也				前帝京平成大学現代ライフ学部教授 中嶋 勝彦
南砺市商工会専務理事 一三三 敦司				一般社団法人 南砺市観光協会専務理事 (代)
北陸広域鉄道部城端氷見線区担当部長 正保 治				富山県となみ野観光連盟幹事 (代) 山田 晃
加越能バス(株)自動車部営業課長 松崎 貴行				東日本旅客鉄道株式会社北陸営業センター 佐々木 隆博
一般社団法人 南砺市観光協会理事 村上 幸子				南砺市観光ガイド連絡協議会長 楠 順子
公募委員 中道 真由美				南砺里山博体験企画者 上田 明美
南砺市ブランド戦略部長 米田 聡				公募委員 山本 誠一
事務局				
交流観光まちづくり課 ブランドプロモーション係主事 嶋田 篤志	交流観光まちづくり課長 米澤 正好	交流観光まちづくり課 ブランドプロモーション係長 片田 健一	交流観光まちづくり課 ブランドプロモーション係主事 坂田 大知	
一般社団法人 南砺市観光協会				
報道		傍聴席		

南砺市インバウンド推進方針（H29年度策定）

資料1

現状

- ・訪日外国人旅行者は、2017年速報値で2,869万人となっており、交流観光まちづくりプラン策定時の2012年の836万人に比べ3倍以上に急増している。国は2020年までに4,000万人とすることを目標としており、特に地方での増加を目指している。
- ・南砺市から1時間圏内にある金沢・白川郷・高山は外国人旅行者に人気観光地であり、入込みは大きく伸びている。南砺市では世界遺産がある五箇山は外国人旅行者が伸びているが、それ以外の地域は知名度が低く、入込み数は少ない。
- ・訪日外国人旅行者の傾向として、個人旅行者（FIT）が増加している。以前は、団体旅行がほとんどであった台湾もFITが増加傾向にある。
- ・五箇山への訪日外国人旅行者は東アジア（台湾・香港・中国・韓国）、欧米豪（アメリカ・フランス・オーストラリア等）、東南アジア（シンガポール・タイ等）からが多い。

課題

・滞在時間が短い
世界遺産やユネスコ無形文化遺産をはじめとした多様な観光資源を磨き上げ、外国人にも分かりやすくすることが必要

・周辺有名観光地から近いにもかかわらず、知名度の低さから目的の地として選んでもらえない。
海外へターゲットを絞った情報発信が必要

外国人旅行者が市内に点在する観光資源をストレスなく周遊出来る環境づくりが必要

魅力づくり

- インバウンド戦略チームを設置
・ターゲット 欧米豪・東南アジア
・南砺らしいブランディング
- 広域連携による観光周遊ルートづくり
・広域周遊コースの提案
・2次交通網・Wi-Fi等広域周遊観光環境の整備促進
- 体験受入れ施設や着地型観光商品の充実
・外国人に魅力的なコンテンツの充実

情報発信

- 観光統計調査の強化
・外国人の観光動向・ニーズの把握
・宿泊者数、観光消費額の推計
- 広域観光ルートでの海外向けプロモーション
・ツーリズムEXPOジャパン共同出展
・セミナー、商談会等の開催、参加
・フェアトリップの実施
- 観光インターネットサイトの充実
・多言語での情報発信の強化

おもてなし

- 総合観光案内拠点づくり
・駅舎を改修して観光案内業務強化
・市内地域間の周遊性を高め、発信
- 二次交通の整備促進
・城端駅を核とした乗り継ぎ利便性の強化、なんちゃり事業
- 外国人おもてなしUP
・観光案内標識等の多言語化
・外国人向け観光パンフレットの充実
・インバウンド受入勉強会の開催
・外国語でのボランティアガイド養成

目標 平成34年 外国人旅行者年間宿泊者数 12,000人

南砺市インバウンド戦略チーム（仮称）の設置について

●戦略チームの役割及び編成概要

H30年3月に、南砺市交流観光まちづくりプランの一部改訂を行い、その中で、「南砺市インバウンド推進方針」を定めた。

この方針を土台として、市及び観光協会が中心となり、2020年開催の東京オリパラはもとより、その後のインバウンド対策も考慮しながら施策を実施していかねばならない。

その上で事業を展開するにあたり、実行主体でもある事業者等の皆さんから事業実施に対する意見・アドバイス等を頂き、調整を図りながら、市予算にも出来る限り反映させていきたい。

また、「南砺市インバウンド推進方針」にも掲げております3本柱の「魅力づくり」、「情報発信」、「おもてなし」に対して計画性のある、ターゲットを絞った施策を実施していくことを念頭に置き、戦略チームでの意見交換等を踏まえ、より効果的なインバウンド誘客を実施し、事業者の皆様が納得できる、儲かるような取組みに繋げていく。

●戦略チームメンバー（予定）

- 1 南砺市商工会 大野さん又は関さん（商工業関係）
- 2 南砺市友好交流協会 渡辺さん（外国人との連携・ガイド人材養成関係）
- 3 南砺市ガイド連絡協議会 楠会長さん（ボランティアガイド関係）
- 4 コラリアルチザンジャパン 山川さん（井波地域宿泊関係）
- 5 井波木彫りの里 創遊館 江尻さん（井波地域食事・物販関係）
- 6 民宿庄七 池端さん（五箇山地域宿泊関係）
- 7 薪の音 山本さん（城端地域宿泊関係）
- 8 松井機業場 松井さん（城端地域体験、伝統産業、土産物関係）
- 9 和紙の里 上口さん（五箇山地域体験、伝統産業、土産物関係）
- 10 井波日本遺産推進協議会 ワーキンググループ（島田さん又は前川さん）
- 11 加越能バス㈱ 松崎課長さん又は笹井主任さん（二次交通関連）

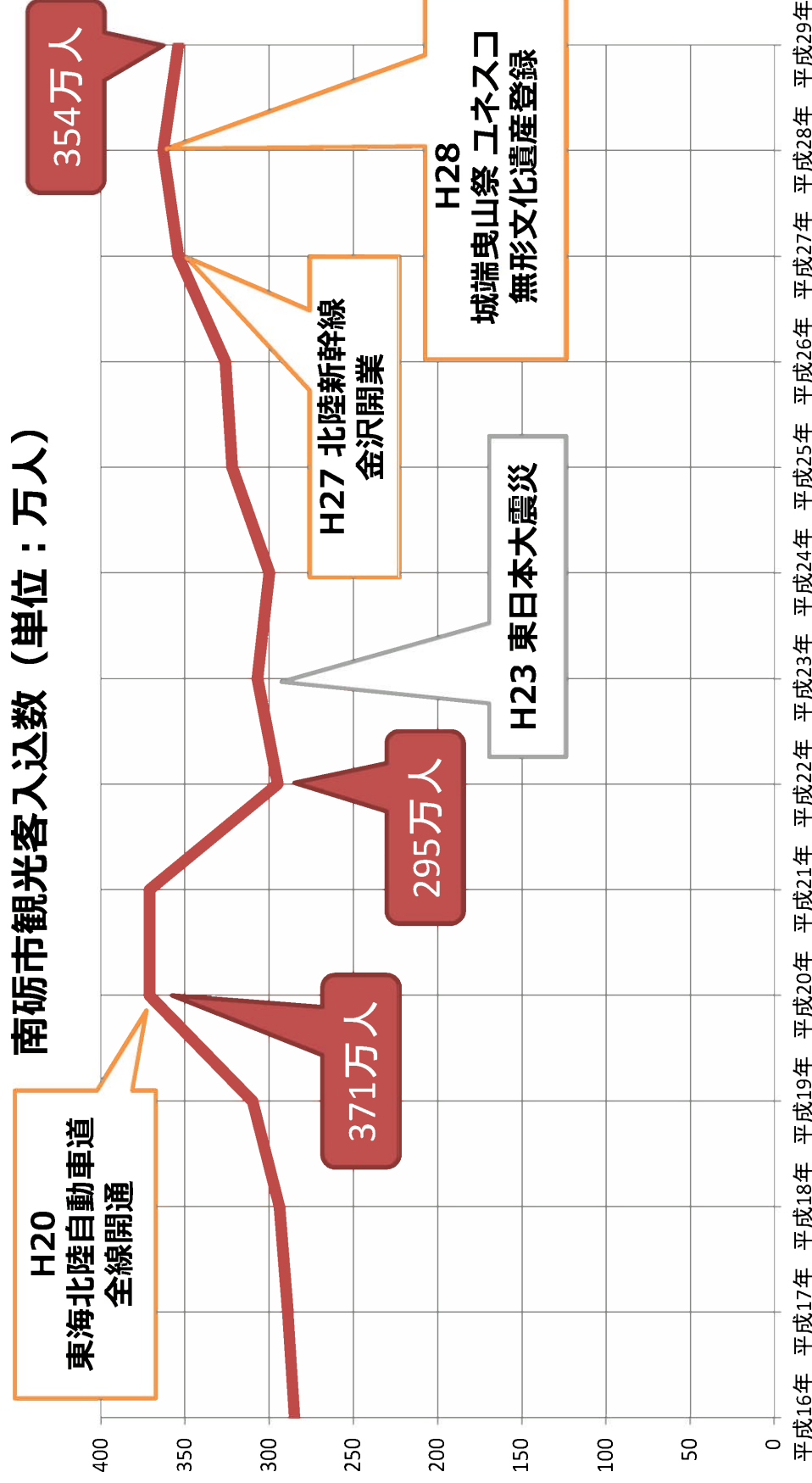
※事務局サイド：市交流観光まちづくり課（米澤課長、片田、嶋田、坂田）
観光協会（野原、中台、山崎）
国際交流員（エラーホースト・キャサリン・スーザン）

※座長：市交流観光まちづくり課 米澤課長

南砺市の観光統計

資料3

(1)市内全域の観光客入込数

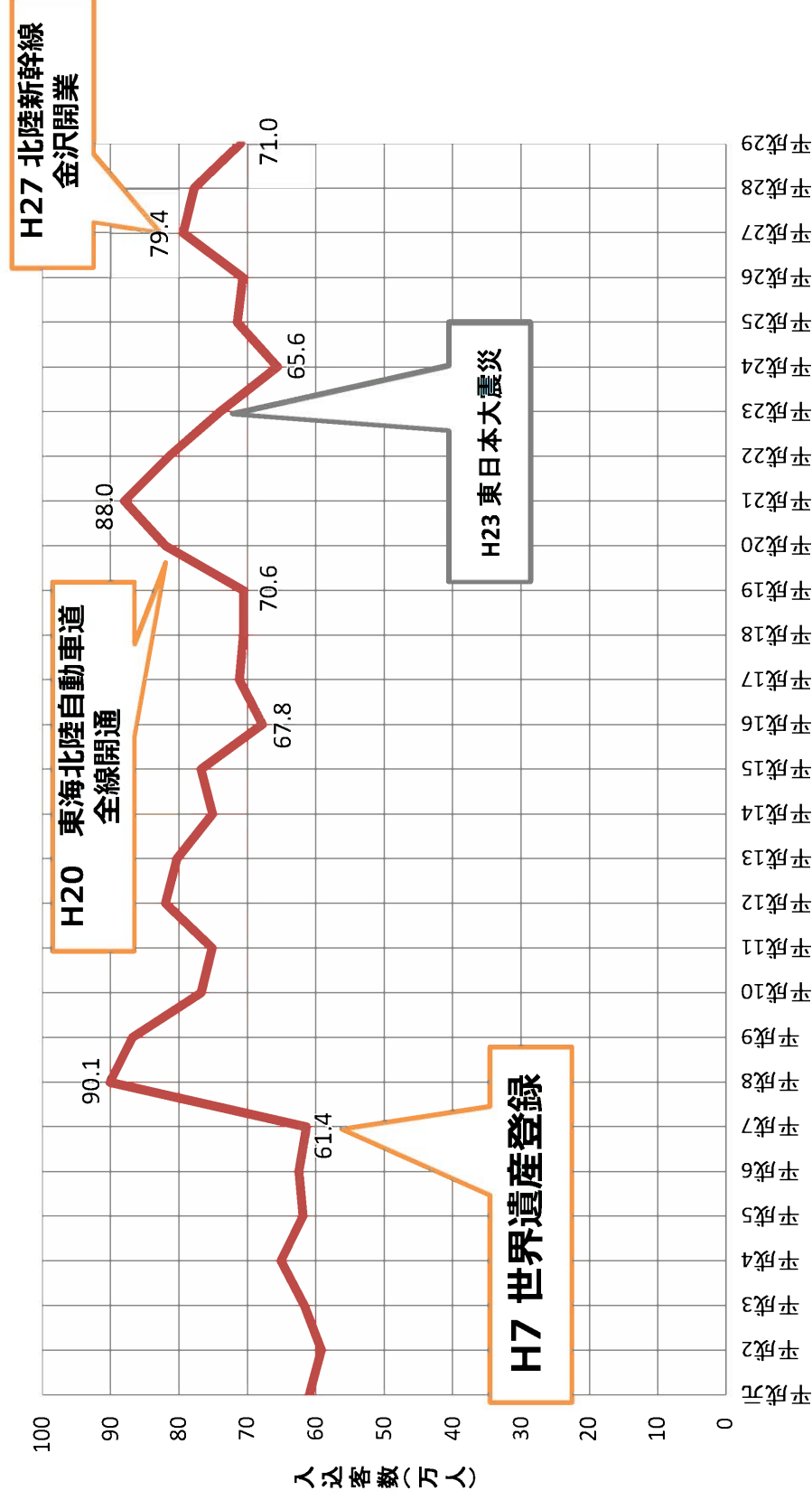


350万人前後で推移

南砺市の観光統計

(2)五箇山地域の観光客入込数（県の統計より）

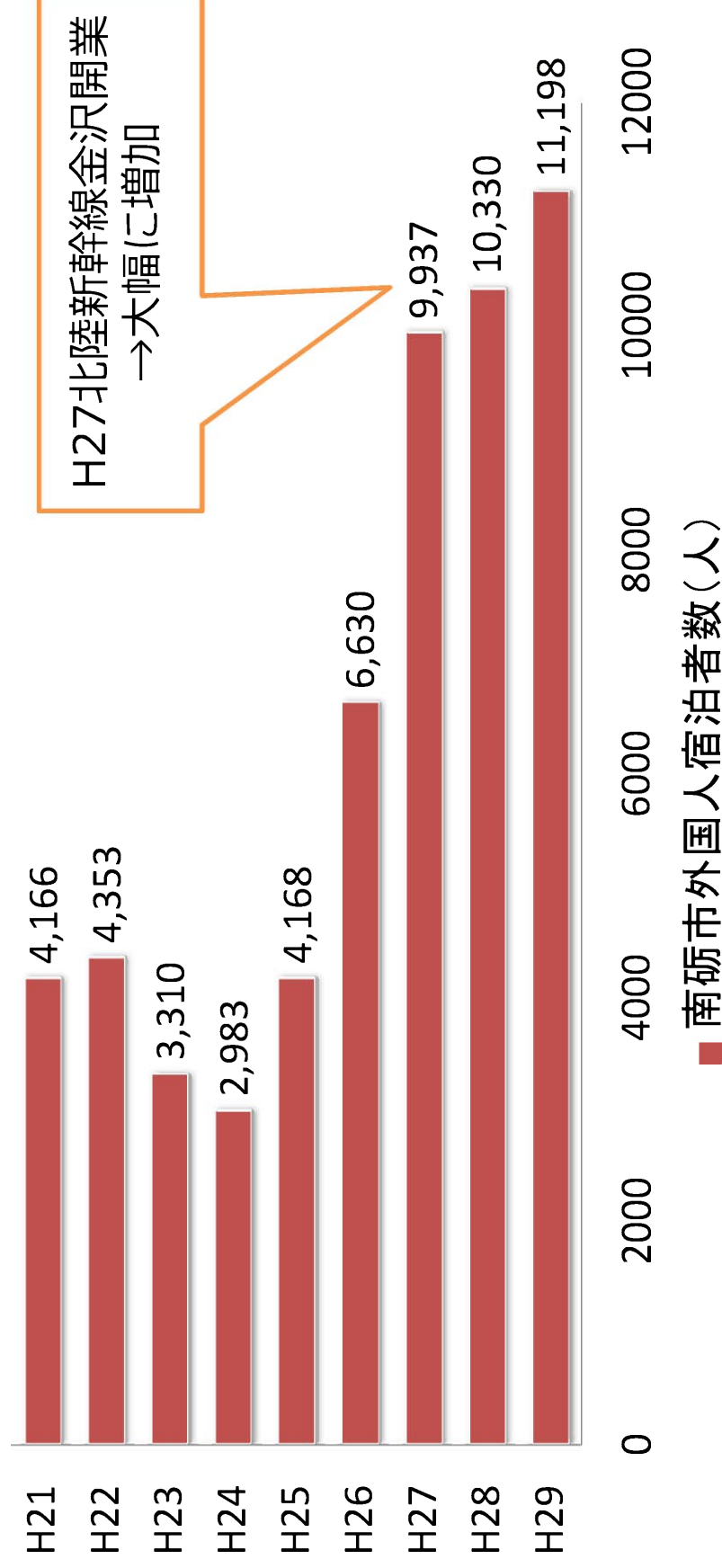
五箇山の観光入込客数(単位：万人)



世界遺産登録、東海北陸自動車道全線開通・北陸新幹線開通が増加のきっかけに

南砺市の観光統計

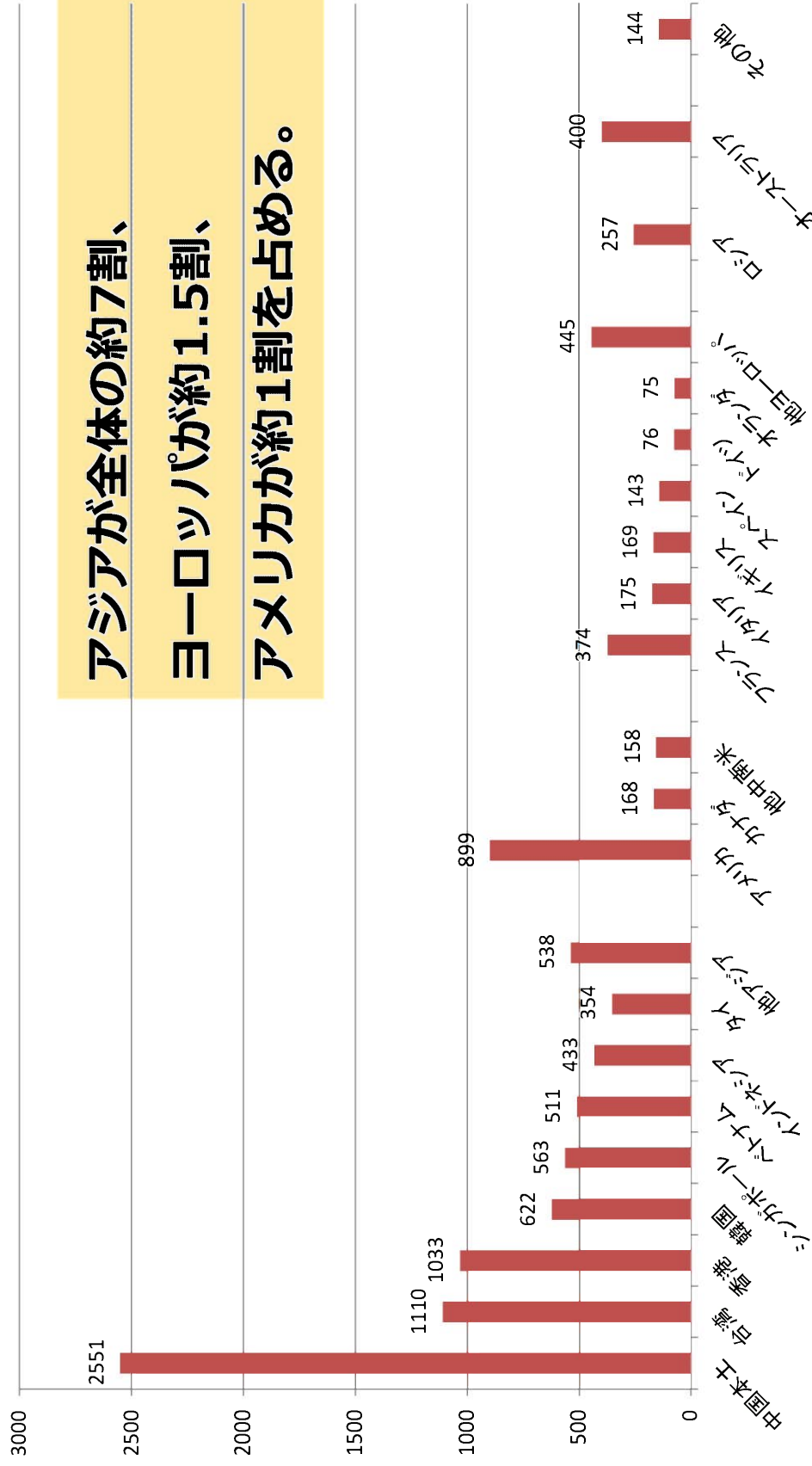
(3)南砺市の外国人宿泊者数（県の統計より）



目標 平成34年 外国人旅行者年間宿泊数 12,000人

南砺市の観光統計

(4)南砺市の外国人宿泊者数(H29：国・地域別)



目標 平成34年 外国人旅行者年間宿泊数 12,000人

南砺市の観光政策

(1)南砺市交流観光まちづくりプラン

魅力づくり



① 広域連携による
観光周遊ルートづくり

③ 体験受入れ施設や
着地型観光商品の充実

情報発信



広域観光ルートでの
海外向けプロモーション
(ツーリズムエクスポジジャパン)

観光統計調査の強化

観光インターネット
サイトの充実

おもてなし



② 総合観光案内拠点づくり
(城端駅の改修・拠点化)

二次交通の整備促進
(なんちゃり事業)

外国人おもてなしUP
(外国人向け観光パンフレット)

目標 平成34年

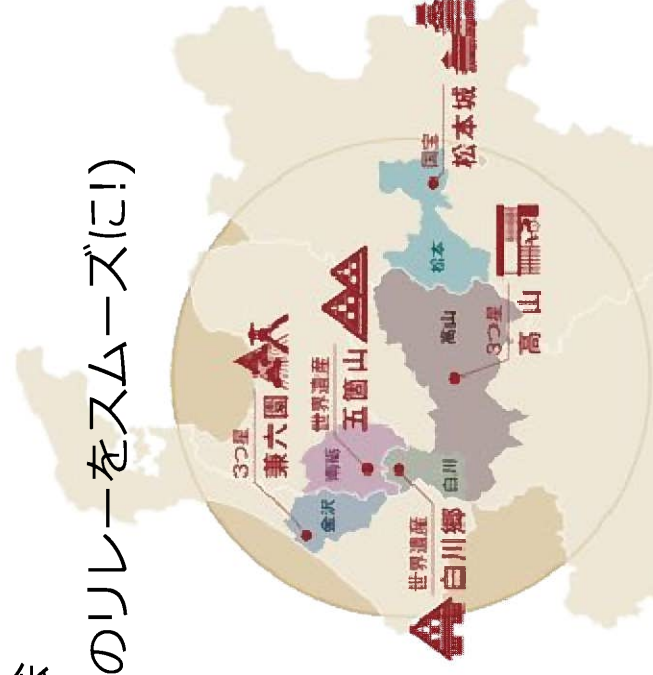
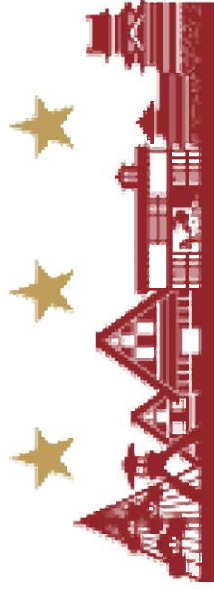
外国人旅行者年間宿泊数 12,000人

(1)南砺市交流観光まちづくりプラン

①広域連携による観光周遊ルートづくり

- 北陸・飛騨・信州3つ星街道観光協議会 (金沢市・松本市・高山市・南砺市・白川村)
 - ・国内最大級の旅行博「ツーリズムエキスポジャパン」への参加
 - ・欧米豪・東南アジアの旅行会社を招き、情報発信・旅行商品造成
 - ・Free Wi-FiのONE認証(一度のログインで各自治体のWi-Fiに接続できる)
 - ・首都圏でのインバウンドセミナー&商談会
 - ・多言語対応周遊案内サービス(通訳ガイドのリレーをスムーズに!)

北陸・飛騨・信州 3つ星街道の旅



広域連携で、誰でもスムーズに観光できる環境の実現!

(1)南砺市交流観光まちづくりプラン

(3)体験受入れ施設や着地型観光商品の充実

着地型旅行商品「なん旅」の展開
彫刻体験×地酒



着物の着付け体験×庄川峡遊覧船



個人旅行者向け・体験プログラムで心をつかむ！

1.インバウンド強化に向けた重点発信（拡充）

伝統文化や歴史のみならず、生活文化や風土にも焦点をあて、それぞれの傾向・ニーズに合致した情報を発信し、海外からの誘客を促進します。

また「北陸・飛騨・信州3つ星街道」等の広域連携による重点的なPRを行います。

（具体的な取組例）

- ・外国人向け観光WEB情報の充実
- ・「北陸・飛騨・信州3つ星街道」等の広域連携によるPR・誘客活動
- ・日本政府観光局（JNTO）や県・関係機関との連携によるPR・誘客活動

2.芸術・文化・祭りの奥深い魅力の充実・活用（新規）

世界遺産「五箇山合掌造り集落」やユネスコ無形文化遺産「城端神明宮祭の曳山行事」、プロジェクト未来遺産「福野夜高祭」、また、SCOT演劇祭やスキヤキ・ミーツ・ザ・ワールドを始めとする国際文化芸術事業など、南砺の多様な文化財や伝統文化、祭り等の奥深い魅力を体感できる機会等を提供します。

（具体的な取組例）

- ・城端曳山会館を活用した通年観光素材としての磨き上げ
- ・祭りや文化芸術事業等を活用した観光商品の充実

3.“北陸新幹線延伸”をふまえた重点プロモーション（拡充）

特定の世代やジャンルにターゲットを絞った、効果的なメディアの活用による南砺市の魅力発信を行っています。これらの活動を継続・発展するとともに、北陸新幹線延伸をふまえた二次交通や周遊ルート等の創出と合わせた情報発信を推進します。

（具体的な取組例）

- ・ターゲットを絞った首都圏でのPRイベント開催
- ・県や富山県西部地区観光協議会等との連携による首都圏プロモーションの実施
- ・北陸新幹線の延伸に向けた関西圏プロモーションの実施

4.観光統計調査の充実と分析力強化（新規）

本プラン前期に実施したスタートアップ事業の一つとして、「観光入込客統計に関する共通基準」に基づいた観光統計調査を実施・継続しています。今後も継続して調査を実施し、地域の観光を取り巻く状況を的確に把握するため、観光消費額を推計するなど統計の精度を上げ、今後の施策立案の基礎とすると共に、結果を公表し、観光関係事業者の誘客活動に役立てます。

（具体的な取組例）

- ・観光消費額を推計するなど既存調査方法の見直し
- ・外国人観光客の動向を把握・分析・施策への反映

5.広域連携による観光周遊ルートづくり（拡充）

北陸・飛騨・信州3つ星街道観光協議会（金沢・南砺・白川・高山・松本）や富山県西部地区観光協議会（高岡・射水・氷見・砺波・小矢部・南砺）等広域連携の枠組みにより、様々なテーマでこのルートを巡ることが出来るよう、観光資源の発掘や関連団体とのイベントの共催、共同宣伝、マップの作成、二次交通網等の整備促進などを進め、広域周遊観光を楽しむことのできる環境を整えます。

（具体的な取組例）

- ・北陸・飛騨・信州3つ星街道観光協議会との連携
- ・富山県西部地区観光協議会との連携
- ・モニターツアーの実施
- ・広域周遊コースの提案
- ・二次交通網・Wi-Fi等広域周遊観光環境の整備促進

6. 「五箇山合掌の里」の活用（拡充）

合掌造り集落の持つ“素”の魅力を大切にしながら、市内への賑わいだけでなく県西部の魅力発信拠点施設として、「五箇山合掌の里」の活用を図ります。

（具体的な取組例）

- ・基本構想の策定
- ・民間資金等を活用した官民連携手法の導入
- ・観光まちづくりのワークショップの開催
- ・歴史的な建造物保存及び活用に関する条例の策定

7. 外国人旅行者のおもてなしUP（新規）

増加する外国人旅行者のためのおもてなし環境を、ハード・ソフトの両面から整備をすすめます。英語を中心に外国語対応出来る人材を育成し、ホスピタリティの強化を図ります。

（具体的な取組例）

- ・観光案内標識等の多言語化
- ・観光施設の受入環境整備促進
- ・外国人向け観光パンフレットの充実
- ・外国人旅行者に対応出来る人材育成

8. 総合観光案内拠点づくり（拡充）

城端線の終着駅であり、北陸・飛騨・信州3つ星街道の玄関口でもある城端駅に、総合観光案内拠点（情報案内拠点、バス・レンタカー等交通拠点）を設置するとともに、各観光施設間において観光情報（交通手段・施設情報・体験プログラム・地図等）の共有を図ります。

（具体的な取組例）

- ・平成30年城端駅舎を改修し、観光協会による案内業務の充実を図る。
- ・JNTO認定外国人観光案内所として、外国人観光客の皆様を更に手厚くお迎えする。
- ・井波、城端への周遊性を高め、滞在時間を延ばすため観光情報の発信を強化する。
- ・二次交通対策を兼ねたサイクルツーリズムによる城端から市内各地への流れをつくる。

9. 二次交通の整備促進（拡充）

城端線各駅からの交通機能の充実、五箇山や南砺市内を巡るシャトルバスなど、レンタカーを使った観光の提案なども検討しながら、市内を周遊できる二次交通の充実を図っていきます。

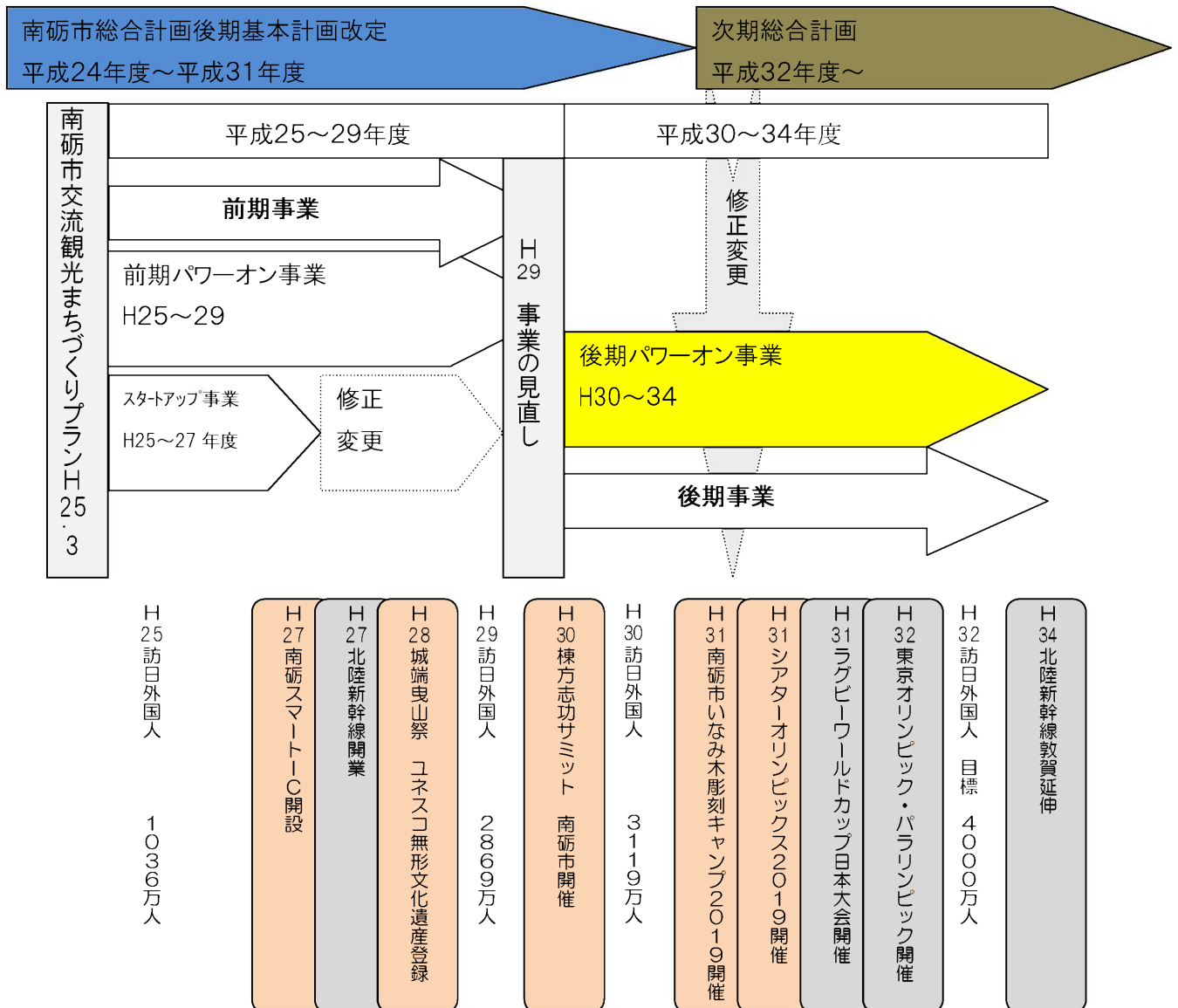
（具体的な取組例）

- ・公共交通事業者等と連携した城端駅のハブ化の推進
- ・二次交通を使ったモデルコースの提案
- ・自転車等を活用した、比較的安価で市内を周遊できる環境づくり
- ・自動運転サービスの動向を踏まえた新たな可能性の模索
- ・城端スマートIC開設に伴う周辺観光地の周遊性向上

南砺市交流観光まちづくりプランの推進の流れ及び検証について

本プランの後期5年間の途中である平成31年度が、上位計画である「南砺市総合計画後期基本計画(改定)」の最終年度にあたり、平成32年度からは次期総合計画がスタートすることから、整合性を図る必要があります。よって、後期5年間の中間年でもある平成32年度を目処にプランの見直しの実施を考えております。

また社会環境の変化や特に平成32年に開催される東京オリンピック・パラリンピックや開催後のインバウンド推進の動きなどを見極めながら、事業ごとに検証・修正・変更を行い、柔軟に戦略を推進していきます。



南砺市交流観光まちづくりプラン推進会議設置要綱

(設置)

第1条 南砺市交流観光まちづくりプラン（以下「プラン」という。）を推進するため、南砺市交流観光まちづくりプラン推進会議（以下「推進会議」という。）を設置する。

(役割)

第2条 推進会議は、次の各号に掲げる事項について、意見を述べるとともに必要な助言、協力等を行う。

- (1) プラン推進事業の実施計画に関すること。
- (2) プラン推進事業の検証・見直しに関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、プランの推進に関すること。

(組織)

第3条 推進会議の委員は、南砺市交流観光まちづくりプラン策定委員会の委員であった者を充て、市長が委嘱する。

2 委員の任期は、委嘱の日から5年間とする。

(委員長)

第4条 推進会議に、委員長1人を置く。

2 委員長は、委員の互選によりこれを定める。

(アドバイザー)

第5条 推進会議に、アドバイザーを置くことができる。

2 アドバイザーは、委員長の求めに応じ推進会議に対し助言を行う。

3 アドバイザーは、市長が委嘱する。

(推進員)

第6条 事業推進にあたり、交流観光まちづくり推進員（以下「推進員」という。）を置く。

2 推進員は、関連機関との調整を図りながら事業全体を推進する。

3 推進員は、市長が委嘱する。

(会議)

第7条 推進会議は、委員長が招集し、委員長が会議の議長となる。

2 委員長は、必要と認めるときは、推進会議に委員以外の者を出席させ、説明又は意見を求めることができる。

(庶務)

第8条 推進会議の庶務は、産業経済部交流観光まちづくり課において処理する。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、推進会議の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成25年5月31日から施行する。